

● 革新的環境イノベーション戦略の位置づけ

- ・COP21で言及された「2℃目標」の実現に向け、我が国として「イノベーションで世界をリードする」というメッセージを発信すべく、2016年4月に「エネルギー・環境イノベーション戦略」（NESTI2050）を、本年6月に「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」（長期戦略）を閣議決定。
- ・本年4月の第5回パリ協定長期成長戦略懇談会において、総理から本年末までに策定するよう指示があったもの。「長期戦略」、「統合イノベーション戦略2019」においても本戦略を策定する旨が記載。

【参考①】

● 安倍総理ご発言（第5回懇談会）

気候変動という地球規模の課題に立ち向かい、脱炭素社会という究極のあるべき姿を実現するためには、従来の延長線上ではない、非連続的なイノベーションを起こさなければなりません。

本日の御提言を踏まえ、政府として本年中に、革新的環境イノベーション戦略を策定することとし、早速その検討に着手します。水素エネルギーのコストを2050年までに現在の10分の1以下、すなわち、天然ガスよりも割安にする。さらには、人工光合成など二酸化炭素の有効利用を図るCCU技術の商用化に向けた具体的なロードマップなどを盛り込んでまいります。

【参考②】

●「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」（令和元年6月閣議決定）

第3章 第1節イノベーションの推進

2. 施策の方向性 （3）技術開発における横断的な取組-革新的環境イノベーション戦略-

社会実装可能なコストを実現し、非連続なイノベーションを創出するため、**革新的環境イノベーション戦略を策定**し、中期的に取り組んでいく。国によるコスト等の明確な目標、官民のリソースの最大限投入、投資額を含めた長期にわたるコミット、国内外における技術シーズの発掘や創出、ニーズからの課題設定、革新的なテーマに失敗を恐れず調整することへの柔軟な制度による支援、ビジネスにつなげる支援の強化、各事業を一体として推進・フォローアップする体制整備等を含み、技術が実際に事業化し、世界の排出削減に貢献できるように**革新的環境イノベーション戦略を2019年中に策定**し、世界に発信していく。これまで、政府は、2050年の社会が求める技術の需要・ポテンシャルを再評価し、脱炭素社会の実現に向けたボトルネック課題を抽出し、「見える化」を図るため、エネルギー・環境技術のポテンシャル・実用化評価検討会を実施してきており、これらの検討をいかしていく。

【参考③】

●「統合イノベーション戦略2019」（令和元年6月）

第Ⅱ部各論 第5章特に取組を強化すべき主要分野

（4）環境エネルギー ②目標達成に向けた施策・対応策

<計画・戦略への反映>

○上記の方向性を踏まえて、**環境エネルギーに関する「革新的環境イノベーション戦略」を2019年中に策定**し、世界に発信する。

革新的環境イノベーション戦略の検討体制

